

## 高等学校グランドデザイン会議第2回上北・三八地区部会概要

日時：平成18年12月14日（木）

13：30～16：00

場所：三戸郡町村会館

### <出席者>

加福部会長 石川副部会長 石橋委員 小高委員 武輪委員 野田委員 古舘委員  
益川委員

### 開会

### 司会

それでは時間になりましたので、進行させていただきます。本日は第2回という事で、自己紹介を割愛していただき、早速議事に入りたいと思っています。まず事務局の方から進捗状況等の説明をお願いします。

### 検討会議・専門委員会概要説明

### 【事務局が、配付資料に基づき説明】

### 司会

これ以降は、時間配分等も含めて部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

### 意見交換

### 加福部会長

それでは、グランドデザイン会議の上北・三八地区部会の2回目に入りたいと思います。先日の第1回目では自己紹介を行ったのですが、いらっしゃらなかった委員から改めて自己紹介をお願いします。

### 小高委員

白銀南中学校校長の小高進です。前回は既にスケジュールが決まっていたために欠席し、大変失礼しました。勉強しながら会議に参加して行きたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。誠に申し訳ありませんが、今日も2時から次の会議があります。本当に申し訳ありません。

加福部会長

後は、佐藤委員と平葎委員が欠席のようです。出席されている皆さんの、率直な意見をお聞かせ願えればと思います。今、事務局が説明をしてくれたので、同じような話を繰り返す事になるかもしれませんが、第1専門委員会と第2専門委員会で話し合われた事について、我々の方でも検討を加えて行きたいと思います。それから先程の説明にもありましたが、前回の会議の中身を専門委員会に報告はしたのですが、もっとこういった事もあったのではないかと、という事があれば後で指摘してください。繰り返す事になりますが、報告した内容について私の方から申し上げる必要はありますか。資料3の上北・三八地区部会と書いてある部分です。また、資料1と資料2は各専門委員会で話し合われた内容なのですが、少し話しておきますか。それから、前は30分ぐらいしか時間がなく、1人ずつゆっくり意見をお聞きする事ができませんでしたので、もう一度私の方から話してみたいと思います。そして、付け足す事があれば付け足して、改めて私の方から報告したいと思いますのでよろしくお願いします。今日は約2時間ありますので、十分に進めるかなと思います。足りない部分が出てきたら指摘していただき、お話いただければと思います。

それでは報告事項等です。適正な学校規模・配置の在り方については、学級数は一律ではなくて地域事情を十分に考えるべきである、という事でした。特に上北の地域事情として、範囲が広い割には交通手段が充分に行き届いていないという事情があります。ですから、一律に学級数で区切る事によって、地域に現在ある高校がなくなった場合の生徒の通学の便を考えると、地域事情を十分に検討するべきです。それから、多様な指導体制が求められる中で、少子化にあっても学校再編は学級減だけではなく、より質の高い教育を目指してもらいたい、という事です。市部では1学級35人で6学級規模、郡部では1学級30人で4学級規模くらいが望ましい、というのがこの部会の話だったと思いますし、特に郡部の学校はややもすれば、学習意欲の乏しい生徒の受け皿的側面もあるのではないのでしょうか。また、多様な進路面も考えるとぎりぎりでない教員数の確保が必要だ、と書かれていますが、これは、特にそういった生徒の指導に対しては習熟度別指導という特別な学級編制をしたりするものですから、先生方の数がどうしても必要になってくるという事を言っているのだと思います。それから、教員数の確保となるとやはり生徒数と関連するのですが、教科の先生がたくさん揃っていないといけません。色々な生徒が入学してくるので、例えばここに書いてある大学受験もそうですが、就職に関して色々会社訪問をしたりする事も必要ですし、あるいは専門教科になると受験指導は難しい、という話だったと思います。進学校と言われる学校は、やはり6～7学級を維持して欲しい。地域を担う人材を育てて行くという大きな役割がある、という事ですが、この辺の事も後でお話いただければと思います。

それから、学級数について市部と町村部の差と言いますか、地域の事情を良く考えてもらいたいですが、学級数が少ないと経済的な面でも負担がかかるという事実もある、とい

う事ですが、生徒数が少ないと、例えば部活にしても色々な学校行事にしても、お金がかかる事が出てくると親の負担が大きいという事です。そのような事も考えなくてはいけないのではないかと思います。

適正な学校規模を実現するための方策としては、学級経営の面から言って、生徒数が減るのに見合う分の先生の数減らさなければならないというのは良く理解できます。地域の生徒が減ると学級数が減るのは合理的だが、専門の先生がいない場合は、先生が兼任して学校を回れば良いのではないのでしょうか。校舎化という話もありますが、生徒が移動して授業を受けるよりは、先生が回った方が良いと思います。この辺りについては、こういう表現で良かったのか後でお聞きしたいと思います。いずれにしても、先生ができるのならば、大きな学校にいる先生に他の学校も回って授業や指導を行ってもらえばいいのではないかという意見です。学校の先生では出ない発想ですね。このような事もやって行けば、子ども達が救われるのではないかと思います。

社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方について、具体的な検討項目としては学科・コース等の今後の方向性という事で話したのですが、例えば八戸水産高校に細かい学科は必要ないという意見がありました。生徒も企業も求めていなく、学校で覚えた事を当てにして企業は採用している訳ではないので、学科を見直し再編して絞った方が良いのでは、という事です。これは他の地域の方の意見にもありましたが、専門高校に行きたくて行っている生徒はあまりいないというミスマッチがあるので普通高校を増やして欲しい、という意見があちこちから出ているように思います。そのような事を報告しました。

早速ですが、この報告を含めて、第1専門委員会の検討事項について話し合っていきたいと思います。結構時間がかかると思いますが、大体前半は50分くらいで行きたいと思っていますのでよろしくをお願いします。それでは、先程事務局から説明がありました県立学校の適正な学校規模・配置の在り方について、1学年あたりの適正な学級数から検討して行きたいと思います。まずは市部・町村部の高校のそれぞれの望ましい学級数についてから始めたいと思います。資料1にあるように、市部については普通科(進学校)6~7学級、普通科4~6学級、総合学科4学級以上、とあります。この地区で総合学科をやっているのは七戸高校です。それから職業学科4~8学級、という事です。今8学級ある所は八戸工業高校だけです。このような感じですが、この市部の学級数について、もう一度我々で検討してみたいと思いますが、意見のある方はどうぞ。

#### A委員

以前いただいた資料で見ると、平成20年度までの事は既に決定している訳ですよね。ですから、平成20年度までの学級規模等は決定しているとして、特に三八地区にこだわって見てみました。6学級以上は八戸工業高校と八戸高校と八戸北高校の3校しかなくなってしまう、6学級以上が適正な学力の維持に必要なだ言われているのにも関わらず、非常に厳しい状況がこの地区においてはあると思います。他の地区の場合を見ると、

6学級以上の学校が結構ありますので、その所について改めて「どうしてそのように偏っているのですか」とお聞きしたら、小規模校が多いので総数では同じ変化になっているという回答だったのですが、あまりにも規模の大きさが地区によって違うのは不均衡ではないかと凄く思っています。後は経済的な面ですが、生徒数においては県内で見ると三八地区は中学校の卒業生数が一番多いのですが、同じくらいの規模の地区に比べて県立高校の募集枠が少ないのが凄く気になります。不平等ではないかと感じています。平成20年度までの決まっている段階で見ると、三八地区は非常にリスクを負わされているという印象を受けています。皆さんそれぞれの考えがあるでしょうから、もし私の考え方がおかしいのならおっしゃっていただきたいのですが、いかがでしょうか。

加福部会長

ただ、津軽と南部を見た場合、やはり県南の方が高等学校は多いです。

A委員

それは小規模校が多いという事ですよね。

加福部会長

小規模校が多いと言うよりも、私立高校を含めて地区に建てた学校ですよ。

A委員

そういう見方もしてみましたし、卒業予定者の数でも見てみましたが、やはり三八地区のリスクが大きくなっているのが疑問を持っているのですがいかがでしょうか。

加福部会長

今日は人数的に少ないですから、事務局からどうぞ。

事務局

おっしゃるように、これは今までの長い歴史の中でこういう形になってきたという事情が1つあります。それは、昭和63年あたりをピークとした生徒急増期に合わせて学校を新設してきた中で、三八地区においては県立高校がなかなか間に合わなかったという事から、私立高校をお願いしていた部分もあり三八地区に私立高校がたくさんありますので、そういう事をリスクと捉えられたと思います。しかし、県立高校と私立高校はそれぞれが役割分担をしながらやってきています。中学校卒業生数に対する県立高校の枠という意味では、例えば私立高校のない下北地区は100%が県立高校ですし、中南地区のように三八地区と同じく私立高校が多いような所もあります。それから西北地区と上北地区のように、私立高校はあっても数が少ない所もあります。そういった所も全部含めて、子供達が切磋琢磨しながら頑張ってきているというのが今の状況です。です

から、他の地区と同じようにリスクを減らしてくれないかという事であれば、私立高校はこの地区から出て行ってくれと言う、というような事になってしまいます。そういう事情もありますし、言い訳になるかもしれませんが、県立高校の募集は全県一区でやっていますので、募集枠も全県一区で考えています。通学の問題も出てくるとは思いますが。全県一区の募集の中で考えた時に、現在は地区毎に偏りがあるのでこれを是正して欲しいという事は、親はやはり公立高校に入れたいと考えるという事です。そういう意味では、おっしゃられたように現在の三八地区では私立高校に入るリスクが高い中で、何故三八地区も他の地区と同じように減らさなくてはいけないのか、という意見は当然あると思います。それを徐々に変えて行く方法はあると思いますが、県立高校だけがそれを今やれる状態ではありませんので、そこを理解いただいた上で、より良い子供達の生き方、進学の仕事、社会に出て行く姿の在り方を考えて行かなくてはならないと思います。確かにおっしゃる事は県教育委員会の方でも痛い所なのですが、今はいかんともしがたいので、あくまでそれを前提に考えていただきたいと思います。本日は、私も三八地区なものですから非常に心苦しいのですが。

#### A 委員

学力に対して一生懸命やる事が、子供の健やかな成長につながると思っています。できれば、小規模校がたくさんあるので全体で考えれば同じだという考え方ではなくて、均等なバランスという事もやはり視点に入れていただければ良いなと思っています。

#### 加福部会長

やはり地区にそれぞれの学校があって成り立っているのだから、私立高校に頑張ってもらっている部分もあると思います。

#### A 委員

私立学校が悪いと言っているのではありません。ただ、経済的負担という事も教育を考える時には必ず出てきますので、そこはやはり視点の中に入るべきだなと思っています。

#### 加福部会長

今の経済的な問題も、もう少し後でまた出てくると思います。

次は町村部の学級数についてですが、この数字は現在ある学校数を想定しているのでしょうか。全体としてどうあればいいのか、という事を考えて行きたいと思うのですがいかがでしょうか。

すみませんが、それでは市部の学級数等については前回我々が話していたのと大体同じくらいだと思っていますが、これでいいでしょうか。

石川副部長

先程読み上げた資料3の中に、市部は1学級35人で、郡部は1学級30人という部分がありました。こういう場合について聞きたいのですが、今35人募集している学校がありますが、それを広く全国的に見た時には他県の高校でもあると思うのですが、あくまで青森県独自の教育施策としてやっているかと捉えていいのでしょうか。

事務局

全国的に学級数の弾力化が認められています。ただ、学級編制が弾力化する事によって教員数が増える訳ではありませんので、そこはやりくりをしながらになります。

石川副部長

やはり、1学級の定数は40人として学級数が決まるという事ですか。

事務局

本来は40人です。この意見にある郡部では1学級30人で4学級という話ですが、これをかけ算すると30人×4学級=120人ですから、40人の3学級規模の学校と同じという事になります。そうすると、教員数は3学級規模の教員数しか該当になりませんので、その少ない教員で多い学級を賄う事が果たしてできるだろうか、という問題が出てくると思います。これは他の地区部会でもお話はあるのですが、やはりお金が絡んでくるのです。国の標準で定められている教員数よりも余計にお金をつぎ込めば、単純に20人学級でも15人学級でもできるのですが、現実には青森県はそれをできる状態ではありません。今やっているのが、小規模校で35人、それ以外の職業高校で35人、残りは40人という括りですとやっています。このように弾力化している県もいくつかありますけれども、青森県はそういう意味では多いのではと思います。

加福部長

県立高校の35人学級についてでしたが、例えばあおもりっ子育てプランでは教員をそれなりに配置するようですが、それは県立高校もそうやっているのですか。

事務局

それはやっていないです。

加福部長

やっていないのですか。

事務局

あおもりっ子育てプランのように1年生を30人学級編制にした時に教員を1人増や

す、という手当が特段ないものですから、今いる教員の中でやりくりしなくてはいけないので、子供の数が減って行くにつれて学校経営は苦しくなっているのだらうと思います。

加福部会長

そういう事ですか。

事務局

先生の受け持ち時間が増えて行きますので。従来より目が届くと言いながらも、実際には手薄になって行くような現実があります。

加福部会長

三戸高校は35人ですよ。

B委員

現在35人でやっていますが、やはり40人の時代と比べてみると、やはり色々な意味で目が届いています。全体的には教員数が同じになっていますので今のようなお話は色々あるのですが、やはり対象人数が少なければ少ない程、色々な指導がしやすくなるという面はあります。

加福部会長

学級数やその他について、今の話に少し関係があると思いましたが確認させていただきました。そうしますと、ここでも6～7学級という意見も出てくるのですが、1学級は何人で何学級が必要だという話をしておいた方がいいのでしょうか。

石川副部会長

しかし、市部が35人で郡部が30人という事は、現状の35人よりも一歩進めたいという事でしょうが、今言われたようなリスクもある訳です。そういう意味では、学級の定員は現状で止めた方がいいのではないかという気もしています。

C委員

資料3だけを見ると、今までどおり既存の学校は可能な限り存続させ、この上北・三八地区では現状のまま残して欲しいと解釈できるようですが、2,300人も生徒が減るという現状では思い切った統廃合はやむをえないというように全体の方向性はなっていると思うのですが、上北・三八地区ではそれをどうお考えなのでしょうか。

加福部会長

前回は、やはり統廃合は認めざるをえないという結論ではなかったでしょうか。

#### C 委員

学校が消えて行く所があってもいいという事ですか。

#### 加福部会長

この部分は、やはり全県的な方向性ではないでしょうか。

#### C 委員

それでは、総体としては仕方がないという考えでよろしいでしょうか。

#### B 委員

その部分に関してですが、郡部の小さい県立高校の場合、学校自体が町の活性化にもつながっているという部分もあり、県立であっても町立のような面も持っている訳で、やはり町と一体となって生徒を育成しているような状況もあります。だから地域にとってその学校が必要だという話はあると思うのですが、統廃合の必要性について高校長協会の方でも申し上げてあるとおり、教育水準や教育環境の維持・向上を図るためにはある程度の学校規模が必要であると考えています。やはり、そのためには統廃合もやむをえないのではないかと考えています。ただし、先程も出ていたように、一律に統廃合するというのではなくて、やはり地域の特性や教育の機会均等という観点に立って計画する必要があると、高校長協会の方でも考えています。特に郡部の場合は通学手段の確保等を考える必要があると思います。通学区域が全県一区となっていますので、特殊な学科に行きたいという場合であれば親元から大分離れて高校に行くという事はあるでしょうが、やはり出来れば親元から通学できる範囲に普通高校や専門高校があるのが望ましいと思います。そういう事で、会長さんがおっしゃったように、統廃合はやはりやむをえないのではないかと考えています。

#### 石川副部会長

中学校の立場で言うと、中学校の卒業生数に対して受け皿の高校が取る数にゆとりがあり、学校さえ上手に選べば全員が高校に入れるという状況は全く望んでいません。そのような、全員がなんとか合格できて、学校さえ選べば誰でも入れるような状況では駄目なのです。やはり適正な倍率が必要だと思います。そういう事を考えると、今言われたように、生徒数が減る訳ですから受け入れる高校の数を絞り込まざるをえないのです。その部分はどうしてもない傾向なので、後は方法論をみんなで決める話なのだと思います。それでも、町村部の高校に最低限2学級という言葉が付け足されてある事については、割と評価できると思います。これがないと、上北地区の事を考えるとターゲットになる学校もありますが、どう考えてもその高校がなくなる事は想像しにくいと思いま



すので。そういう意味では、実情を考慮できる幅みたいな部分を残した形で進めて行くのがいいと思っています。

#### 加福部会長

かなりの生徒数が減ります。学校2～3校分くらいです。そういった事を考えると、一概に郡部だから、小さい学校だからなくしてしまうという事は言えないながらも、どうしても学級数は減らして行かなくてははいけません。あるいは極端な話ですが、市部の学校で大きい所でも後からできた学校はなくするという意見もありました。元々なかったのですからいいのではないかという意見です。ただ、それぞれの学校がそれぞれ特色を持ちながらやっている現状から言うと、学級数を減らした中でも特色を活かしながら、進学、就職等をしている良い学校もあるという事なども考えると、学級数でカバーしておけば郡部の小さい学校でもなんとか親元から通えたりするのではないか、という事を色々な資料において皆さんが話されています。

#### C 委員

一定の基準を決めて統合するという事が良いと、そのように解釈していいのですか。

#### 加福部会長

これを何学級というような事はもう少し時間が経ってからでないとはいえませんが、そういった状況であるという事は認識していただけたと思います。それから、今お話がありました。生徒は教えられるだけではなくて、やはり切磋琢磨し競争する、そういう意欲的な事も学校で育てなくてははいけません。それこそ前回にお話されたように、高校で勉強した知識を望んで会社に入れているのではなく、物事をきちんとやれるかどうかという問題だ、という意見もあります。そのような事については、皆さんどうでしょうか。今は学級規模の話をしているのですが、そういった部分もやはり必要なもので、残す残さないは別として、そういった学級数なり統廃合なりを考えて行かなくてはいけないという事だけで、基準の学級数を決めたりというのではなく大体このくらいでいいと思うくらいでいいのではないのでしょうか。先程の話について、何かございませんか。

#### D 委員

前回の内容をこうやって文章にして見ると、こんな事を言って良かったのかとも思いますが。学級数や、特に学級の生徒数の議論というのは私も PTA の話で色々聞いていますが、部会長がおっしゃられている内容でいいと思っています。

#### 加福部会長

それでは、第1専門委員会で話し合われた市部・町村部の学級数については、今の段階ではこれでいいのではないかという事で話を進めたいと思います。

## B 委員

第3回目の第1専門委員会で、色々な意見が出ているのを読ませていただきました。本校の場合は普通科と商業科の併設校です。商業科は商業高校にまとめた方が良く、あるいは農業高校にまとめた方が良くという意見が出ているようですが、郡部の場合はやはり市部に出るのに時間がかかります。例えば、三戸から八戸へ、市部の八戸商業高校まで行くと考えると、青い森鉄道で学生の定期は、三戸～八戸間で1ヶ月定期で11,490円です。通勤料金よりはかなり安くなっているとは思いますが。更に本八戸駅までJRを使ったとすると、1ヶ月の学生定期で3,420円です。そこからまたバス代がかかりますので、本八戸から八戸商業高校までは1ヶ月の定期で10,640円です。青い森鉄道の場合は、定期を購入しないで普通に買うと片道550円ですから、往復で1,100円かかります。三戸から八戸まででそれだけ交通費がかかるという事ですから、保護者の負担は非常に大きいと思います。

それからもう1つの考え方をすると、商業科が同じ地域の農業高校に移ったとしても、入る生徒はそんなに変わらない状況になるだろうと予測されます。しかも、設備を移動するにもお金がかかると考えられます。この前の第1専門委員会で色々討議されたようですが、併設校の場合にはお互いに切磋琢磨できる良さがやはりあるのです。普通科は普通科なりの目標を立て、職業科は職業科として目標を立て、学校全体でこういう事やろうと一生懸命に取り組んでやっているのです。ですから、学校の活性化につながっていると思います。やはり、そういう商業科等を併設で持っている学校は、その学科が頑張れば全体のやる気や励みにつながって行かろうと思っています。むしろ私自身は、教員を集中して拠点校なるものを作って、実習の際にはその専門高校の方へ実習等に出向くという事も考えていいのではないかと考えています。これから色々皆さんの意見も伺いたいと思っています。

## 加福部会長

学級数に絡んで併設されている学科についてのお話がありましたが、それはまた後で出てくると思いますので、とりあえず市部・町村部についてはこのくらいでいいのでは、という事で話を終わらせていただきたいと思います。事務局から説明がありましたが、分校の場合はいずれはなくなるという危機感を持っている方がたくさんいると思うのですが、どうしてもやむをえない学校については特色を持たせて存続させる、と書いてあります。頑張れる学校は、例えば郷土芸能を引き継いでやっている田子高校は全国区でもトップクラスですし、そうやって学校一丸になってやっている学校もありますので、そういった地域の学校にとっては一生懸命に頑張れば残るという可能性も残しておけるのでいいのではないかと考えています。

次に普通科と職業学科等と総合学科の在り方についてですが、職業学科、いわゆる専門高校は色々な技術等を身に付ける所でしたが、それも最近では企業はあまり期待はし

ていないとか、高校生はすぐ辞めるといった現状があるため、学校では基礎基本となる勉強をもう少しやった方が良いのではないかと、という意見が多かったように思います。総合学科については、先程話したように上北・三八地区では七戸高校がありますが、総合高校についてきちんと理解している親はあまりいないのではないかと思います。

#### 石川副部長

我が中学校でもそうですが、結局子供達は卒業の段階でまだ進路が定まらない状態がある訳です。そうすると、なんとなく間口が広い感じがする総合学科というのは、私が見る限りでは人気があるのです。高校に行ってから、じっくりと自分の適正を見極めて選択できるという感じがあります。

#### E 委員

今ひとつはっきりしないような感じを持っています。そう言いながらも、中学生くらいではなかなか自分の将来の進路をはっきりと持ちづらい時期だと思いますので、そういった時の受け皿としては今のような総合学科という選択もあるのかな、という気もします。少し話がずれるのかもしれませんが、今の6年生の子供達が初めてだと思いましたが、先般三本木高校附属中学校の受験がありました。倍率がどのくらいかと思って見てみると3倍くらいでした。自分が予想していたよりも凄く高い倍率だったと思い、これだけ子供が少なくなっている中でも、小さな頃から子供に対して一生懸命に頑張る親が多いのか、という感想を持ちました。といった中で、実際の話は3分の1の人しか三本木高校附属中学校には入学できないという現状があり、やはり普通高校へ進学したいというニーズが現実として確かにあるという気もします。三本木高校というのは非常に高いレベルの進学校ですので、今の資料では市部の進学校というあたりを目指していると思うのですが、その下の普通科で4～6学級のあたりの学校の事を考えてもらっても、受け皿としてはいいのかなという感じもします。

ところで、総合高校というのは普通高校とは全く別なのですか。総合学科というものについて、前回の会議に参加していないので勉強していないのはまずいと思って勉強したのですが、もう少し勉強しなくてはいけないと思いました。

#### 加福部長

ここにも書いてあるのですが、総合学科に関してはこれまでの実績等を検証し、特徴を鮮明にする必要があるという事ですが、この辺について県南地区の保護者はどう考えているのでしょうか。

#### E 委員

総合高校という高校があるという事は説明に来てくれるので、そういう説明を受けて新しい学校だというイメージ作っているだけかもしれません。ただし、七戸高校の場合

は前身の商業科や生活科が根本にあって、その延長上に系列みたいなものが構成されているという感じはあるのですが、果たしてそれがニーズに応えているのかという高校側の事情もある訳です。

加福部会長

事務局から教えてください。七戸高校は、いわゆる基礎基本をきちんともう一回勉強させてからそういった事をやった方がいいのではないかと、という感覚なのですか。

事務局

介護に関する系列がありますので、そちらの方は介護福祉士の資格を取るために一生懸命に頑張っています。それから一部は進学に向けて頑張る生徒もいますし、就職に向けて色々な技能等を身に付ける生徒もいます。そういったように様々あるのが今の七戸高校の姿だと思っていますが、どちらかと言えば、就職に寄っている所があると思います。

加福部会長

元々七戸高校という学校は、それこそ進学校のような素晴らしい学校だったという印象を受けているのですが。

A 委員

質問してよろしいですか。この総合学科というのは国からの政策ですか。それとも県独自のプランですか。

事務局

国が、やはり多様な教育が必要だろうと考えたものです。

A 委員

そうすると、これから増えて行く可能性があるのですか。

加福部会長

かもしれませんし、そうでないかもしれません。この会議で、何だ総合学科は、という事になれば、青森県は頑張って普通科を主体に戻すかもしれません。

A 委員

戻す可能性はあるのですか。

加福部会長

戻す可能性もあると思いますが、いかがでしょうか。

#### 石川副部長

何とかやらなくてはいけないと思います。何でも国の言う事を聞いてやるのが良い事ではないですから。

#### 事務局

国は、導入当時は凄く頑張って全国に設置したいという事だったのですが、今は頑張れというようには言ってきません。頑張れと言っていた人が辞めてしまった事もあるでしょうし、全国平均よりも青森県は高い総合学科の割合が既にできているからだと思います。そういった中で、これからこれ以上拡大して行くのかどうかという問題については、皆さんが必要だと考えるならば拡大して行くでしょうし、もう少し検証し良く考えた方がいいのではないかと、あるいは普通科志向が増えるのではないかとという意見であれば、現状維持あるいは縮小して行く事もあるでしょう。ですから、我々県教育委員会からどうこうと言うのではなくて、まず皆さんにどういうニーズがあるのかという事です。今の時代に国からやれと言われたからやりますよ、という訳ではありませんし、これは本県独自にもっと広げたいというのであれば、広げて行けばいいと思います。

#### C委員

国の政策でそういうようにされても、七戸高校の福祉健康系列は凄く人気があったらしいのですが、今度厚生省の方で時間数をもっと増やさなければ介護福祉士の受験資格が得られないようにするという事で、何か運営が難しくなっているようです。ですから、これから入っても何人が受験資格を得られるか分かりませんし、それに合わせて授業させるかという事は不可能です。そう考えると、あまり政策に振り回されてもいけませんので、やはり価値観や基礎学力をきちんと学んで、その上で介護福祉士等を目指すというようになってきていると思います。

#### 加福部長

最近はそういうようになりつつあります。

#### B委員

総合学科を扱った経験がないので何とも言いようがないのですが、これもやり方次第なのかなと思っています。ただ、一般的に聞こえてきているのは、例えば専門的な学科の事や、進学はどうかという事です。そういった、ややメリットが少し見えにくいような話が聞こえてはきているのですが、例えば進学に力を入れるというように決めて取り組めば、またそれなりに活路が開けてくるのではないかなと思っています。

#### 加福部会長

そういう事で、総合学科に関しては、もう少しはっきり我々にも分かるような学科でなくては進める事もできないし、やはり指導ができません。総合学科を卒業した先生というのもないし、経験した先生がいないのですから、本当に直接関係している進路の先生等でないと、あのくらいの説明でいいのかとなる。それで保護者に説明したとなる訳ですから、そこでかなりの認識の差があるのでないかなと思います。この地区の総合学科に関しては、他の一生懸命にやられてる学校の話を少し聞くしかないのではと思っています。

#### 石川副部会長

あれは1年生でなくて、2年生から選択に入って行くような状況になっているのですか。

#### 事務局

基本的に、1年生の間に必修科目の教科を学びながら、「産業社会と人間」という科目で自分がどのように社会と関わって行くかという事を勉強しながら、2年次以降に系列に分かれて色々な選択科目の中から取って行くという形になっているようです。学校によって開設している選択科目もまちまちですし、系列もそれぞれです。系列に一旦分けて指針を決めないと、本当にただ摘み食いをして終わってしまうという事があるので、どの学校でもこういう進路であればこういう科目を取りなさいと、系列を示しています。

多少付け加えますと、多くの県立高校で1年時から総合的な学習の時間の中でキャリア教育を取り入れたり、今お話がありました「産業教育と人間」等の産業教育に関する教育を少し多目に取り入れたりして職業に関する意識付けをやっていきます。また、総合学科では系列のガイダンスを繰り返し行いながら1年次を過ごすようです。

県内に総合高校は6校あるのですが、七戸高校のように母体が元々商業系の学科があるような学科から総合学科になった学校、青森中央高校のように母体は同じですが進学を目指す学校、大湊高校のように普通学校だった所が地域の事情で総合学科になった学校、それから木造高校のように普通科と併設して商業科が凄く一生懸命に頑張っていた多くの地域の学校が総合学科に変わった学校、というように、それぞれの学校で成り立ちがあり、過去があって変わってきています。ですから、いきなり総合学科はどういうようには言えないのが現状です。

#### 加福部会長

格好良く言えば、生徒の多様化に応えるためにこういう学校ができた、と考えればいいのですか。

#### 事務局

そうですね。

加福部会長

困ったな。なんて言いますか。

石川副部会長

もう少し人気があったと思うのですが、今の段階では結構もう駄目だという気もしますが、もう少し成果を見て行くべきだと思いますし、私は先程言ったとおり更なる可能性を感じるのです。子供達の実情に合っている高校の在り方の1つだと思います。爆発的に増えるとは思いませんが、そう尻すぼみになるというようには感じていません。

加福部会長

結論としてはここにあるように、これまでの実績等を検証するという事で、上北・三八地区は見て行くと言う事ですが、もう少し別な方法を考えるのもいいのと思っています。よろしいですか。

時間は前半50分と言ったのですが、もう過ぎてしまいました。資料1のまだ2枚目までしか行っていないのでもう少し続けます。全県的視野での普通科、職業学科、総合学科の地区毎の募集割合という事について、何か意見がありましたらお願いします。多くの委員が普通科を増やすという事で共通してるようで、ここにはこう書いてあります。割合は自然に決まるものであるから、見直しを進める中で自然と学級減を進めるのが理想的であると。全県的な普通科、職業学科等の募集割合について、何か意見はありますか。ただ、私は思うのですが、全国的に見て青森県は大学進学率が低いから進学率を高めるために普通科を増やす、という考えはどうなのかという事です。色々な生徒がいますから、青森県が困っているから、数値を上げたいからそうするという事は教育的でないと思います。職業学科と総合学科については各地区に設置する事を考えるが、雇用状況等を学科・コース編成に反映させる努力が必要である、という意見を述べている方もいます。ですから、私は地域毎の違いがあってもいいのではないかと思います。その辺について、皆さんはどう考えていますか。

石川副部会長

上北地区に関しては、妥当な線の割合だと思いますし、今部会長が言ったように、地区によって割合が全部同じにならないのは、必要があるからならないのだろうと思います。

加福部会長

その辺についてはよろしいですか。1時間を過ぎましたので少し休憩にします。この第1専門委員会の部分が我々にとって本当に重要だと思っていますので、残りは後半に

持ち越してまた少し話したいと思います。きちんと整理して地区の意見も載せたいし、地区の考え方が通るように話を聞いてから行きたいと思います。

~~~~~ 休憩 ~~~~~

加福部会長

それでは続けたいと思います。3ページですが、適正な学校規模を実現するための方策という事で、特に全県的視野での統廃合の必要性と可能性についてです。統廃合以外の選択肢はどうか、というようなクエスチョンになると思います。先程から学級数云々の話をしてきましたが、全県的な視野でという事については、これは子供達が少なくなるのが事実ですから、全県的でなくても地域でも統廃合の必要性は充分なのでないかと思えます。ここにも書いてありますが、統廃合はやむをえないと考える、という事です。それから、高校が地域文化の拠点としての役割を担ってきたからとか、今そこにあるからという理由でなく、現状を踏まえた上で県全体から統廃合を含めた適正配置が必要だと思えます。この意見もそのとおりだと思うのですが、その辺について皆さんの意見はありますか。

B委員

先程も言いましたが、適正な学校規模を保つためには、統廃合はやむをえないと考えます。数の限られた教員を集中して有効活用する事が、今現在求められている姿ではないかと思っています。

加福部会長

それから今の話にもあったのですが、地区の学校と言いますか、郡部の学校というのは地域の町村に凄く面倒を見てもらったり、行事に参加したりして町や村の活性化にもつながっているというように言われていましたが、ここに書いてあるように、設立した時とは環境も時間の経過と共に変化しているので、全ての高校について過去の経緯に縛られるのではなく改めて見直す必要があると思う、という事も言われていますが、その辺についてはどうお考えですか。

B委員

改めて全部見直す事は、それはそれで良いと思います。ただ、やはり色々なこれまでの経緯なり辿ってきた足跡がありますので、その辺はやはり先程から述べられているように、一律にやるという事ではなく進めてもらいたいと思っています。見直す事は良いと思います。

加福部会長



歴史のある学校も、浅い学校もあると思うのですが、それらを全てもう1回見直して行く必要があるという事で、統廃合については必要だという意見でよろしいでしょうか。適正という事について、今我々が話し合った色々な意見を最後にまとめるのだと思うのですが、その辺は後でよろしいのではないかという事もあります。先程の意見と似ているのですが、入学倍率が1.2倍程度になる事が望ましいと、ここに書かれています。高校において一定の教育理念を維持するためには、入学倍率が1.2倍程度になるのが望ましいという事なのではないでしょうか。やはり倍率のない所に学力の向上は望めないという事と同じだと思うのですが、これらに関してはどうなのでしょう。小規模の学校というのは、やはり倍率も低くなりますよね。

#### B 委員

郡部の学校はどうしても低くなりがちになりますので、郡部では1.2倍とかになれば高いと思います。

#### 加福部会長

一定の倍率を維持するためには工夫が必要ですから、これはやはりそれぞれの学校で努力して行かなくてはいけない部分だと思います。また、全県的視野での統廃合の必要性ですが、これはもう認めざるを得ないという事でよろしいでしょうか。後少しだけですが、地区の理解を得る方策としては、学校が地域社会に果たす役割及び地域の学校に寄せる期待を理解しつつ、現状では思い切った統廃合はやむをえないという事で、思い切った統廃合についてはこのまま述べてよろしいですか。何か条件を付ける必要がありますか。

#### C 委員

一定の規定を設けて校舎化するにしても可能性を含ませて、全部が校舎化になるのではなくて良かったら格上げになる等の長い見通しも立ててはどうでしょう。

#### 加福部会長

一定の規定ですか。その規定というのはどういうものですか。

#### C 委員

例えば、地元地域から何人の人が来ていてその占める割合や、過去数年間の倍率等です。

#### 加福部会長

地域の人が入学してくる実情をもう少し見よう、という事ですか。

### C 委員

ある委員は、地元の中学校からは半分しか入学してこなくて、残りの半分は八戸市の方から来ると言っていました。

### 加福部会長

それでは、先程の話ではありませんが、南部工業高校をなくして八戸工業高校だけに、三八地区で工業高校に行く場合は八戸工業高校だけとした時にどうなると思いますか。

### C 委員

ですから、自宅から通えないとか交通費がかかるとかの問題はあるだろうし、そういう時には何とも言えません。第1 専門委員会での基準等について、結論を出して欲しいのです。

他の先生の委員から、こういうような基準があった方がいいとかの意見はありますか。私が考えるとこういう基準になると思うのですが。

### 加福部会長

私も教職についていたのですが、学校の先生が言うよりも、むしろ企業で経営なさってる委員の方が思い切った統廃合をずばっとできる考えを持っているのではないのでしょうか。何か良いアイデアはありませんか。そんな事を言ってもいつまでもきりが無いと思いますよね。学校経営、あるいは会社経営にしても同じ部分もあると思うのです。やはり、職業高校にしても、就職させるためにはやはりこれだけのものがないと駄目だよとか、成果が上がらないとかはあると思いますし、進学校は進学校で、こういった切り方をして倍率を高くしてもっとやる気を起こさせるという考えもあると思います。どうしても学校の先生は、こういう子供達も、こういう子供達もいるじゃないかというように考えてしまいますし、親の立場からしてもそうだと思います。あちらの高校に行くともた金がかかるな、など色々考えますよね。企業的にずばっとやる方法がありますか。

### D 委員

思い切ってやるしかないなと、結論としてはそう思います。例えば、どうしても工業高校へ行きたいから、と考えると遠くの学校に行かなくてはいけないという人も中にはいるのですが、そこまで決めて高校に行っている人は少ないのではないかと思います。前も言いましたように、水産をやりたいから八戸水産高校に行くというように、それを目指して選択してる訳でもなく、やはり需要と供給の問題で入学しているようです。私としては八戸に水産高校はあって欲しいのですが。

鮫に県立海洋学院がありますが、生徒よりも先生の方が多いという事を新聞で読みました。これをおかしいからどうかしようと思ってるのですが、納得しないのです。な

んとかしてくれと議員を使って陳情する訳です。それは思い切ってやってしまわないくてはいけません。ですから、先程も意見があったように、基準があれば分かりやすいのかもしれない。

加福部会長

それでは、基準については後程考えてみたいと思います。

C 委員

三戸高校へ地元の方はどのくらい行っているのですか。

B 委員

地元からがほとんどで、八戸市から来るのは3～4名くらいです。後は近隣で占められています。

C 委員

80%くらいですか。先日の青森での会議の帰りに七戸からバスに乗ったのですが、その時に七戸から七戸高校の生徒達がたくさん乗ったのです。ほぼバス1台分。この便だけでも結構な数ですが、これだけ十和田から通っているという状態は何なのだろうと思います。

加福部会長

それでは親の立場で何かありますか。

E 委員

少し私は違ってはいますね、国家100年の計は教育にありという話なのですが、企業経営においてはドライな考え方が必要で、今の時代はきちりやっていると淘汰される時代だと思うのですが、教育に関しては全て一律にきちり基準でという進め方をして行くのではなく、要するに高校ではベクトルを間違えなければいいと思います。例えば、少し違う話になるのですが、タウンミーティングのように国だけを見ながらのミーティングになってしまうと、せっかくのミーティングの意図が違う方向に行ってしまうというような流れの中で、やはりせっかく時間を取ってこういう会議をやっているのですから、基準は勿論結果的にあった方がいいという気もするのですが、教育においてはドライな進め方という事はいかなものかという感じがします。

第1専門委員会の方でも色々考えた上で、このコメントになってるという感じを受けました。あまり適切な言葉の表現がなくて、現状では思い切った統廃合はやむをえないと言い切ってしまったのかなという感じを受けました。

加福部会長

基準について意見はありますか。

A 委員

地元の出身者が何割くらいを占めているかという事や、通学に何時間かかるか、いくらかかるかという話は参考にはなるかもしれませんが、親の立場からすれば行きたいと思えば遠くでも通わせたいと思いますので、この文章にあるように思い切った統廃合はやむをえないという事で賛成です。

加福部会長

基準というのはやはり必要なのではないかと思うのですが。

C 委員

基準がなくて地域の方に納得してもらえるのでしょうか。

加福部会長

そこなのです。うちの地区ばかりではなく、やがては各地区でもっと学校が少なくなるかもしれないのに、我々地区の人間はそこを考えられないのです。何でうちの学校だけが、と考える地区の人が多いのだと思います。

C 委員

地域に納得してもらうためにも基準は必要ではないでしょうか。

B 委員

うちの町では小中一貫教育についての検討が始まり、様々な議論が行われているのですが、どうして小中一貫を検討しているかということ、例えば中学校に入ってすぐ登校拒否になったりするように、小学校から中学校への段差があまりにも大きいと考えられたからです。ですから、例えば小学校と中学校の9年間で4、3、2くらいに分けると旨く行くのではないかな、という事を検討しています。私はこれは画期的な事ではないかと思えます。地元がまず色々検討して何とか子供達を守ろうとしている中で、地元の高등학교がどうあるべきか、どうしなくてはいけないのか、という事を色々今考えています。結局は色々あるのでしょうけれども、やはり子供達がとにかく基礎基本をがっちり掴んで、そして本当に人間として立派に育てて欲しい。そういう願いがある訳です。その上に、やはり学力だとか勤労観だとか職業観だとかというものがあって、そういう環境作りをしていかななくてはならないと思っています。色々な子供達がありますが、やはり中学校から高等学校に行く時に、これをやりたいからとか、あれをやりたいからというものはなかなか見つけにくいのです。ですから、中に入ってから、色々な学科が

あって、その中で頑張ればなんとかやれるのではないかと考えています。

加福部会長

4ページの2番目の所で事務局が説明したのですが、各市町村の中学校卒業生の動態、全県的な交通体系を考え合わせて公正に判断して、その判断の上に統廃合基準があると考え、というような事しか言えないのではないのでしょうか。基準は明確に我々が出せるものですかね。第1専門委員会でそういう検討ができないものですか。

C委員

今度の会議も統廃合についてという事でした。

加福部会長

その辺の所については、今は判断できないと思います。思い切った事をするには、やはり基準を何とか定めなければと考えていますし、説得するにはそれでは駄目だと思います。こうだからこうなんだというものがないと本当に大変だと思うのですが、ここでそれを決めるものでしょうか。

C委員

高校が地域で果たす役割も見てくれと言われると大変です。

石川副部会長

今ここで基準をはっきり決めた方がいいのではないのでしょうか。

C委員

ここで基準を決める必要はないと思います。

加福部会長

と言いながらも、若い人達がどんどん少なくなっています。地域の人達は、そういう事をどう感じているのでしょうか。

C委員

やはり問題は少子化なのでしょう。

加福部会長

やはり何かとあるのでしようが、現実はこちらからずばっとやるしかないのではないかと、思い切ったという事はそういう事なのではないかと思えます。その辺については専門委員会の意見として基準を設けるべきだと思いますし、ここで基準をなんとかしよう

と思わなくてもいいと思います。大変申し訳ありません。私もこの項目に丸印をしていて、基準の設定というのはどうなのかについて皆さんから意見を聞かなくてはいけないと思っていたのですが、やはりこれだけの人数では基準は出せないと思います。

#### 事務局

皆さんにお配りしている資料に第2次実施計画の青い冊子があり、それは平成16年度から20年度までの在り方という事でやっているのですが、その前に冊子にはならなかったのですが第1次実施計画があったのです。それを策定する時に今回と同じように県で有識者を集めて意見を聞いたのですが、その時に統廃合基準というものをあらかじめ設けた事があり、子供の数が何人の状態が何年続けば統廃合します、という基準を設けてやった時期がありました。ただ、実際はこの基準に合致する学校が出る前に第2次実施計画を作ってしまったので、逆に統廃合する事になった学校からは、今の基準から見るとまだ残るはずなのにまた新たな基準を作って統廃合するのはおかしい、という事を言われた事が当時ありました。ですから、そういった所も踏まえて、今後基準を設けるべきというようになるかどうかという事も考えていただきたいと思います。我々も基準があればやりやすいという点はあるのですが、ただ、今度は基準に合わせるために地域が無理に頑張るという事が出てくるかもしれません。先程の話の中でもありましたが、親と言うよりは地域が生徒が行きたくない高校でも町に残すために、町のためにその学校へ子供達を行かせる、というような事がもしかすると将来出てくるとすれば、基準がない方がいいのかもしれませんが、基準がなくても、その時点で総合的に判断するという方法もあるかもしれません。そこは我々も考え方が2通りあるものですから、どうした方がいいのかという点を第1委員会の方で検討して欲しいと思っています。

#### 加福部会長

もう少し第1専門委員会の方で考えてもらえないか、と預けるしかないですね。

#### 事務局

あくまでも、ここで答えを出すものではないと思います。

#### 加福部会長

是非第1専門委員会の時に、喧嘩になったとしてもやはり基準が決まらないと説得性が出ないから、と言ってみてください。上北・三八地区部会には話してみたけれど、本当に思いきった事をやるのなら、やはり基準を作って地域にこうだからこうですという事を説明・説得しなくては地域の人達は納得しないと思います、とすみませんが頑張ってみてください。そういう事で、統廃合は必要だという事はこのままでいいと思います。

それから新しいタイプの高校という事ですが、これは財政面で無理だと言っていますので、これは話し合う必要がないと私は思いますので外します。先程から地域の反発を

受けないための対策として考えているのか、あるいは専門委員会の方で可能性としてそういった事も話題にはのぼっているようですが。

5ページの地域毎の学校配置という事について、何か意見ございますか。

#### B 委員

地区部会という事なので、是非お話してきて欲しいという事がありましたので申し上げたいと思います。田子高校さんから中高一貫を継続していただきたいというお話がありました。中高一貫は現在良い形になって現れていますので、何とか残して欲しいという事でよろしく願います、という事でしたのでお伝えしておきます。

#### 加福部会長

地区毎の学校配置という事で、田子高校からは中高一貫の継続の要望があるようです。

#### C 委員

今は見ている段階という事ですから、三本木高校も新しいモデルケースとして見て行きたいという事ですので、田子高校がどのような成果を上げて行くか見て行きたいという事ではないでしょうか。

#### 加福部会長

これは新たに他の学校からも出てくると思います。何か目玉になる事を足して、うちの学校はこういう事をやっているのだから残して欲しい、と言ってくると思います。

私をもっと聞きたいのは、青森県は経済的にこれからどうなるのかという事です。全国的に、青森県は、この地区はどうなるのかという話を聞きたいのです。なぜ聞きたいのかと言うと、やはり地域の親達もお金さえあればどこの学校へでも子供を行かせます。お金が不足する事によって、子供が学校に行きたいと言っても行かせられないという、昔と同じような状態になります。そういう話をお聞きしたいと思っています。三八地区と上北地区はどうなんですか。

#### D 委員

八戸市は市長が経済政策を一生懸命に頑張っているので、良くなると信じています。

#### 加福部会長

管轄が別ですが下北地区などでは、原燃、原燃とあれだけ騒いでいるのにさっぱり景気がいいという話は出てきません。都市から来た職員も今は少なくなってきているようです。ですから、青森県は本当にどうなるのかと思うのです。県は学校建築は駄目として取りかかっているので、私達が色々騒いだ所でそれは難しいと思います。こういう学校を作って欲しいという理想はあるのですが。以前にこういう先生がいました。八戸

は、八戸駅の駅舎を建てる時に付随して学校作れば良かったのではないかと。あちらこちらから生徒が来ていて、駅を利用してる生徒がかなりいるのだから、そうすればもっと違ったのではないかと、という考えを持って人もいました。なるほどなと思いました。学校を駅舎内に設置するという発想はあまりないですよ。民営化され本線から外れて、八戸北高校なども便が悪いです。その便が悪い学校に集めていても、生徒はまた行くんです。学校でも、部活をやるにしても早く帰らないといけません。スクールバスでいいと皆さんは言いますが、スクールバスを活用している学校では、私立高校なんかでもそうですけど、遅くまで残ってはできないのです。早く帰って勉強させろ、という事です。そのような旨くない事情がたくさんある感じがします。景気が良くなれば、親は何も言わないと思いますし、地域に学校を残せとかという事は言わないと思います。お金がいくらでもあって、下宿でもアパートでもマンションでも使ってもやる、という所があるのです。医者の子供達はそうやって頑張ってるやっています。けども、青森県には帰ってきませんので医者不足です。今の医師不足などという事も、やはり地区の学校からは何人も行かないでしょうけども、昔は地区からも医者になろうという人はそうやって大学へ行って勉強した人もたくさんいました。そういった事を考えると、色々な面でほころびがどんどん出てくるような感じがします。

中学もそうですが、学校は色々な生徒を見ているので、親の気持ちが一番良く分かります。本当に色々な子供達の様子を見ているので郡部も減らして欲しくないし、市部の学校はどうしてどんどん増えるのだ、生徒がみんな集まって倍率が高くて市部だけがどんどん肥えて行く、そういう状態もどうなのかとは思っています。しかし、私は立場上そういう事を言って会議を無視する訳にはいかないと思います。ですから、古舘委員から第1専門委員会に地区部会の方ではこうなっていると、頑張ってる伝えて欲しいと思います。

## C 委員

第2専門委員会の議事録を読むと、将来子供達が飯を食って、結婚して、子供を産んで育てて行くという事を考えた時に、県内に留めておけるだけの力があるだろうかと思うのですが、私はないと思います。

## 加福部会長

夕張みたいな事もありますから、そういう事もやはり考えて行かないといけません。ですから、企業を営んでいる方の意見というのは、そういう意味では大事だと思います。本当に世の中はどうなっているのかという時に、私は銀行の方の話を良く聞いたりします。銀行はやはり偉いなと思うのは、そういった情報や勉強を一生懸命にやっているのです。

大体これで第1専門委員会の資料についての検討は終わってよろしいですか。大変申し訳ないのですが、まとめようにもまだできないと言いますか、ここでは意見を聞こう



と思っているだけです。まとめてしまうと専門委員会の方で仕事がなくなるのでまとめはしません。地区の声としてはこういった事ですが、今まで検討した状況で大体いいのではないかと、という事で報告したいと思います。

予定の時間が10分しかありませんが、第2専門委員会の資料についても検討しておかなければいけません。申し訳ありませんが、少しでもお付き合い願います。第2専門委員会の進路志望に対する学科・コース等の在り方ですが、進路に関して先程も話していたように、経済的な余裕ができればどこの親でも子供でも自分の希望する所に進んでやれると思います。勉強嫌いの人は別ですが、大概の子供は小学校と中学校で鍛えられて勉強したり、勉強するというように考えて、高校を目指しているのです。特に今の時代は、全員に甘くという訳ではないのですが、高校は終わらないといけないと子供達は知っています。新聞にも全国的な統計が出ていましたが、勉強しなくてはいけないのは分かっているのです。今の子供達は、勉強は嫌いでも働かなくてはいけないという事も分かっているのです。アルバイトやニートでも十分に生活ができる世の中です。そういう意味では、本当にどうなのかと思う部分がたくさんあります。社会の変化と多様な進路志望という事に関しては、世の中はこれからどう変わって行くのか、それではどういう高校を残したらいいのか、どういう勉強をさせるといいのか、という事について検討して行けばいいと考えます。社会の変化については今話してもらいましたし、世の中はこういうように変わってきたのだなと、皆さんそう思っていると思います。企業の変化について少し詳しく考えを聞きたいと思います。

#### D委員

身近な事しか言えませんが、前回も少し話しましたが、八戸水産高校がやっている事と、企業が求めている事が変わってきているのです。八戸水産高校では缶詰の作り方をメインにしていますが、今は安全安心とか基本的な衛生管理の方法という部分が、これは水産にかかわらず食品業界に共通した一番大きい課題となっていますので、そういう事を勉強してもらいたいと思います。企業が求めている内容が変わってくるという事は当然だと思いますので、それぞれの関連業界の意見を聞く機会を持って、もう少し参考にさせていただければいいのではないかと気がします。それから普通高校について、英語科、人文科、理数科等について生徒が選び切れていないという話がありますが、もしかしたらリスクが高い所を避けて、リスクが低い募集人員が多い学校に集中してるのかもしれないという話であれば大変残念です。人気がなく選ばれていないような所は需要がないので仕方がないと思いますが。突拍子のない話かもしれませんが、第1希望、第2希望というような制度があると、そういう選び方をする人がいるのかもしれませんが。高校までそういう選び事をするという事は、本当は良くない事だと思っているのですが、そういう事に対する弊害というのはきっとあると思いますので、その辺について教えていただければと思います。

## 事務局

基本的に学科が複数ある学校は、第1希望、第2希望をやっています。普通科第1希望でも英語科に行ったり、理数科に行ったりという事で、結果的に定員に達するのですが、最初からこちらに行きたいという生徒はなかなか出てこない訳です。第1希望で理数科40人の所に45人も応募してくるのであれば、それは人気があってという事になるのですが、35人しか応募してなくて残り5人は普通科を落ちた子供が入ってくる、というような状態になっているのが今の姿です。そういう学校が全てではありませんが、そういう学校もあるという事です。ですから、そこはもしかすると見直しが必要なのかもしれません。

## 加福部会長

学科・コース等の今後の方向性という事で、少しだけ触れておきたいと思うのですが、高校全般に関しては、やはり高校生は駄目だという社会的評価を挽回するというような事ですよ。それと基本的な教科を学び、しつけ、挨拶、時間を守る事。そういった事が必要なのではないかという事です。この辺は、高校生を見ても感じます。本当にそうですか。

## D委員

そう思います。

## 石川副部会長

例えば制服の事なのですが、高校生がとんでもなく短いスカートを穿いて歩かれると、中学生を指導するにあたってははっきり言って邪魔な訳です。中学生は、高校生になったらああいう格好したり、スカートを短くしたいという負の願望を持つようになります。中学校は義務教育なので、がりっと叱って止められるのですが。

## 加福部会長

私もずっと生徒指導の関係をやってきましたが、それは全く違うと思います。中学校の先生の考え方も駄目だなと思います。高校では誰も短いスカートを穿いて来なさいとは言いません。化粧にしてもそうです。今の子供達は化粧が非常に上手になりましたし、高い化粧品も使っています。だからそれは世の中の大人の責任です。高校の責任ではなくて、世の中の大人の教育の責任だと思います。

## 石川副部会長

同感です。ですが、現象面として、そういう事が現実にある訳です。中学校が義務教育だからそれをさせない事が可能で、高校になると義務教育から解放されたから、それが許されてるとすれば。

#### 加福部会長

決して許してはいないのです。夜の遅い時間帯に出歩くのも許してはいません。しかし、高校というのはあちこちから集まっている学校ですし、小学校・中学校というのはその地域の子供達が行っている学校です。その辺の違いがあると思いますし、発育発達段階の違いもあると思います。それから、世の中のマスコミ、テレビ、雑誌、ああいった類の物も世の中を変えているのだと思っています。それに続いて、芸術家も色々な事を言っている現状があります。

#### 石川副部会長

私に言わせると、高校の先生が、世の中の勢いに押されてもう間に合わない、と諦めているのが先行してる気がしてしょうがないのです。

#### 加福部会長

それはその学校の先生が悪いのです。諦めるような先生は先生ではない。

#### 石川副部会長

例えば、化粧をしてくる、携帯は持ってくる、という事に対してもう止めさせられないと諦めている事が問題です。私は100満点ではなくても良いと思っています。だけでも、やはり絶対に許さないという気概で向かえば、このくらいの事なら3割くらい減らす事は可能だと思っています。この意見にしても共感できるものがたくさん書かれているのですが、そういう方法で高校教育を考えて欲しいと強く思います。

#### 加福部会長

やはりこれは郡部の学校には特に大事な事ですけれども、地域の人達と非常にその辺については良く話をしましたし、地域からの声も聞こえてきたりします。高校教育の学科・コースの問題からは外れましたけれども、そのような観点で高校生を育てる学校の見直しも考えながら、学校の統廃合を考えなくてはいけないと思います。地域にとって学校がどうなのか。市内に通ってる生徒はどうなのか。東京のマンモス学校の高校生と比べて、青森県の青森市、八戸市の子供達はどうかというと、東京は元々手を付けられない状態で無法地帯のようになっていて、高校の先生もそれこそ手を付けられない状態だと思います。青森県の特に八戸あたりでは、先生方は良く頑張っている方だと思います。話が外れてすみませんが、こういった話も大事な事だから出てくるのだと思います。

#### B委員

生徒によっては立ち止まって挨拶してくれる生徒もいます。何回言ってもスカートの丈をその場は直しても、もう一回あげたりする子もいます。実際問題、やはり家庭でも

親も忙しくなっているのでしょう。だから、例えば物を食べる時にしても、こちらで金を払ってるのだから「いただきます」なんて言う必要はないのではないか、という事を世の親が平気で言うそうです。親がそうすると、子供もそうなるのです。その辺の問題だと思しますので、子供自体はそう悪くないと思います。ただ、言う事を聞かない面もありますが、それはそれでまだまだ捨てたものではありませんし、やはり親の環境もそうですが、今の環境があまりにも子供に悪すぎるような部分が出てきていると思います。

#### 加福部会長

高校全般を考えると、高校生の態度と言いますか、勉強する姿勢が今少し見られない部分がありますので、高校の統廃合をするにもそういう地域性等を十分に考えなくてはいけないというように意見を持って行きたいと思います。2ページにあるのですが、生徒の進路志望の多様性を重視して、特色ある学科の設置を行ったと思うが、あまりに生徒の進路志望の多様性ばかりを考えてもいられないのではないか、という意見がありました。私が言いたいのはこの次にある、基礎基本をしっかり勉強させる事が全ての高校に課せられた課題ではないか、という部分です。ここは本当にそうではないかと思うと述べて、ここは終わりにしたいと思います。それから、大学全入時代に大学進学率の向上を目標とする事自体が正しいのか、という意見を持った方もいるようですが、全員入学であろうと、そういった事が必要なのであれば、進学率を上げる事を目標としてうんと勉強しなさいと指導する事も、方向としてはそれでもいいのではないかと思います。それから普通高校については、教師や保護者が思う程に生徒達には大学進学に対する強い意識はなくなっているようで、進路指導をきちんとしないと次へつながって行かない状況にある、という意見があり、それは感じています。また、普通高校においても職業教育、挨拶、協調、基本的な人間性・社会性を教えるべき、という意見もありました。極端な所では、スポーツ科学科以外は将来的には廃止し1校に集約する、といった意見の方もいました。皆さんはどう考えますか。あちこちの学校に色々な科があり、先程も言いましたが、英語科、人文科でも倍率がそれほど高くないのであれば、ずばっとなくしてやる事なども考えて行かなくてはいけないと思ったりもしていますが、皆さんはどうでしょうか。総合高校については、先程話し合ったように、上北・三八地区はこの所はこれを外したいと思います。職業高校全般について、昔はスペシャリストを育成するという目標がそれぞれあり、昔はそれ相応に通用したのですが、今は勉強してないのかと言うとそうではなく、勉強はしているのですが求めているものがもう少し高度になってきているのではないかと思うのです。その辺の所について皆さんの意見を聞いて、農業高校と工業高校について少し触れて終わりにしたいと思いますが、それでよろしいですか。時間も押してきましたので、すみませんがそういう事でお願いします。職業高校全般について、皆さんの意見を少しまとめてみたいと思うのですがいかがですか。なければ次に、農業高校についてどうお考えですか。

石川副部長

農業高校という事ではなく職業高校全般に関わる事なのですが、ここに出てくるように、学科を細分化する事はやはり求められていないような気がします。その必要性を感じません。職業高校の場合には先程言ったように、今一番その子供達に必要な人間性というものが欠けていると思われる世の中ですので、そういうものが普通高校以上に必要である事をアピールできるし、そういう教育がよりやりやすい気がします。、そういう事に力を入れた教育を用意できるのが職業高校ですし、そのためには専門性を高めようとして学科を細分化したりするよりも、大きい括りにして、その中で今言ったような事に力を注いだ教育を行うのがいいと思います。

加福部長

工業高校についてはどうですか。

石川副部長

近くの職業高校としては十和田工業高校と三沢商業高校があり、先程の話の繰り返しになるのですが、今言った2つの学校は高校生としてはしっかりした格好をしていると思って見えています。中学校の生徒達への説明会等で来て高校の先生方が言うのは、そういう部分を言うのです。やはり世の中に出て通用するように、制服や返事や態度にしてもきちんとさせて、自分達の学校で就職を希望する生徒を100%手助けし、何年も続けて達成していますと。なぜこの学校を受けたいのかと子供達に投げかけていますが、それがしっかりした服装や態度であったりしてるような気がします。こういう部分が職業高校の良い所だと思いますし、またそういう職業高校は、子供達も良しとして希望して行っているような感じがします。

加福部長

少年健全育成という事で子供会をやってる人に怒られた経験があります。八戸北高校にいた時に子供達のそういった会議があって参加したのですが、どうして普通高校の生徒はこういうボランティア活動やJRCといった活動に参加しないのだ、地域の小・中学生が一生懸命に頑張ってるのに、私立高校の何校かの生徒しか参加してくれないのはどうしてだ、と怒られた事があります。ですが、学校の事情が全然違うのです。普通高校の場合は、朝補講が始まって、夜遅くまで部活をやって、進学を目指してその後も塾に行ったりする子供達もいます。農業高校にもいた事があるのですが、子供達は地域に行って花壇作り等を一生懸命にやって、戻ってきて農家を手伝って、そういった子供達が多いのです。そういう高校生をどう捉えるかは様々だと思います。ですから、南部工業高校あたりでもそうですが、少人数だけでも服装でも何でもきちんとしています。そういった他の所でやる事はやっていますし、冬場近くなればもうそろそ

るまた始まると思いますが、地域のボランティア活動で老人のお宅を訪問してあちこちを直したり、色々な事でボランティア活動を一生懸命にやっている学校もある訳です。輪切りにされて職業高校に進んできた子供達がそういう活動を一生懸命にしようとする子供達とそうでない子供達の、どちらが人間らしく大人になったら期待できると思うかです。片方では、一生懸命に勉強して医者や弁護士や大学教授になる事を目標にやっている子もいる訳です。それが学校なのです。そういった事を含めて全般的に言えるのは、高校生というのはそれぞれに向かって頑張っている。ただ、指導を必要としているというのは分かります。ミニスカートだから悪い、という事ではなくて、我々はそういう所を踏まえて、高校生とはこうあるべきだという事をもう少し考え、学校の統廃合や学級数についても、もう一度この次の地区部会で話を進めて行きたいと思います。

#### B 委員

職業高校について色々な意見がありましたが、私自身はやはり職業高校イコール就職ではないと思っています。いくつもの目標を持たせやすく、例えば資格取得にしてもたくさんありますから、そういったものを励みにしていける学校です。また、職業教育を通じての人づくりという見方でやってみてはどうかとも思っています。

#### 加福部会長

商業高校にしても工業高校にしても、学校が独自に目標を持たせてやっているのですからあまり言えないのですが、本当は農業高校と工業高校を、あるいは商業高校と農業高校を一緒にして学校を統廃合をしたらいいのかという話もしたかったのですが、司会がまずくて大変申し訳ありません。途中少し抜かした部分もありますので次回にもう少し話を持って行きたいと思いますが、これで今日の所は終わりにしたいと思います。事務局にお返しします。

#### 閉会

#### 司会

本日は大変ありがとうございました。この地区部会も更に回を重ねます。今後の予定につきましては、事務局から連絡を差し上げて調整して行きたいと思います。今後の会議の方も更に積み重なって行くと思いますが、その都度貴重な意見をたまわりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。